



2

「煙のない社会」実現に向けて

「煙のない社会」のビジョン

喫煙環境の整備

煙のないランドマーク

BtoBの取組み

■「煙のない社会」実現に向けて

PMIは日本国内のすべてのステークホルダーと協力して、従来の紙巻たばこをより良い代替品で切替えていくことを表明しています。私たちが目指すのは、健康へのリスクを低減する加熱式たばこ製品の開発によって業界のリーダー&パイオニアとなり、たばこの煙のない日本を作り上げていくことです。

スタジアム、カフェ、世界遺産、オフィスなど、消費者との接点となる数多くの場所で、PMIはこうした場所をたばこの煙のない場所にして、加熱式たばこの愛用者が指定された適切な場所で加熱式たばこ製品を楽しめるよう、支援しています。

PMIは会社の将来を煙の出ない製品に託し、最終的に紙巻たばこ事業から撤退することを公に表明した唯一のたばこ会社であり、煙のない社会の実現に向けてその姿勢を示しています。

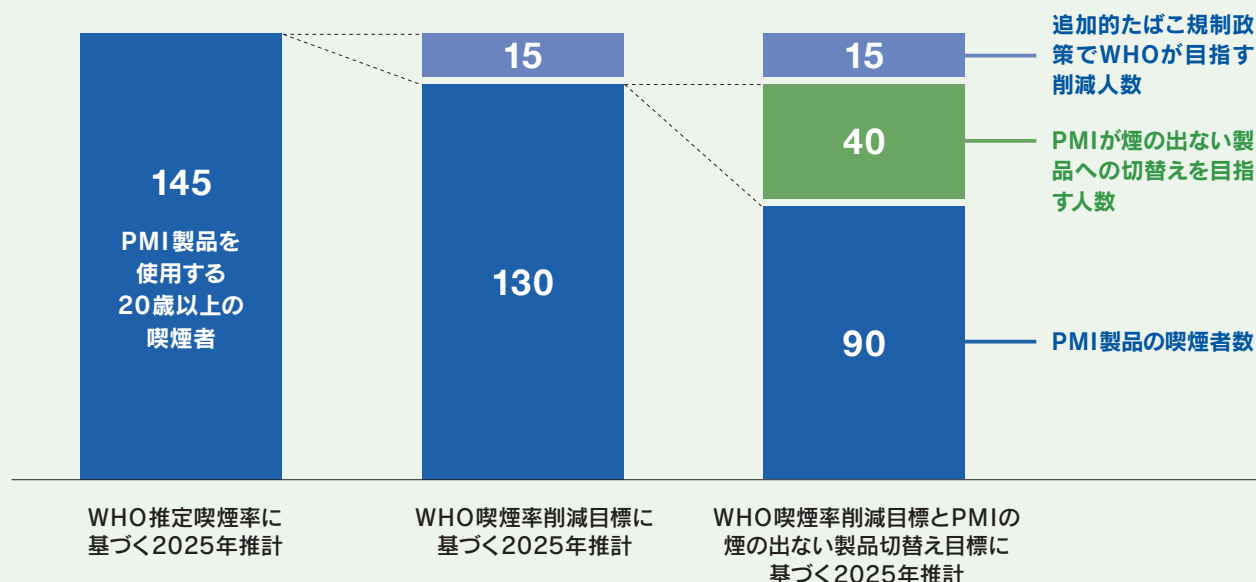
■ 煙の出ない製品へのアクセス

煙の出ない製品の開発、これは最初のステップにすぎません。次の大きなステップは、20歳以上の喫煙者の煙の出ない製品への切替えを促すことです。PMIはこれまで5年以上かけて、煙の出ない製品の生産能力を拡大してきました。人材やその他の資源もこうした製品にシフトし、紙巻たばこの販売モデルから、より消費者中心の営業手法に転換しています。

私たちは、2025年までに全世界で少なくとも4,000万人の紙巻たばこ喫煙者がPMIの煙の出ない製品に切替え、PMIの紙巻たばこの喫煙者を5,500万人減らすことを目指しています。この目標は、世界保健機関(WHO)の予測に基づいて作成しています。同予測を基に計算すると、2025年までにPMIの製品を購入する喫煙者は1億4,500万人に上る見込みです。WHOは、増税などの従来型喫煙規制手段を強化することによって、喫煙率のさらなる低減を目指しています。WHOの2025年目標値をPMIの消費者ベースに当てはめると、2025年までにPMI製品の喫煙者は1,500万人減り、1億3,000万人になる予測です。私たちの戦略はこのWHOの取組みを補完するものです。

PMI製品使用者：2025年推計（PMIの市場シェアが変わらない場合）

（単位：百万人）



■ 加熱式たばこ専用エリアの取組み

2020年4月に全面施行された改正健康増進法を受けて、日本各地で受動喫煙の防止を強化する動きが見られます。当社は、公共の場所での喫煙を規制することは適切な措置であると考えています。

また、火を使わず煙の出ない加熱式たばこに関して、当社は、健康リスク低減に関する科学的根拠を踏まえて、紙巻たばこは違うルールづくりを支持します。すでに、改正健康増進法、たばこ税制、注意文言、火災予防に関する規制の適用および安全対策に関する議論において、紙巻たばこ異なる、加熱式たばことしての取り扱いをされ始めています。

当社では、多くのステークホルダーと科学的根拠に基づいた対話を進めており、特に喫煙環境についての助言を必要としている事業主様や施設管理権原者様に、加熱式たばこを活用した環境整備を提案していきます。

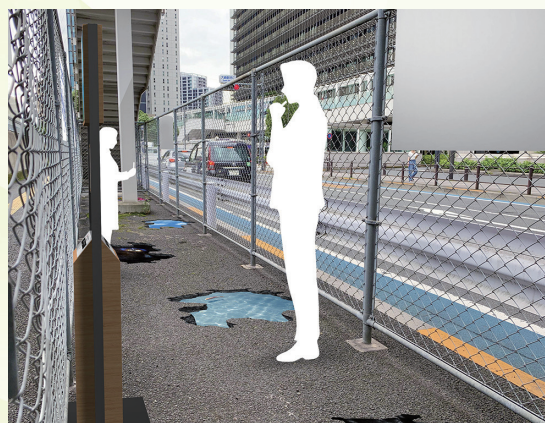
田町駅西口 「加熱式たばこ思いやりゾーン」

港区は、2018年7月に田町駅西口の公共喫煙所に、加熱式たばこ専用のスペースを増設しました。ここは港区内で最も利用者数の多い公共の喫煙所で、以前は紙巻たばこ加熱式たばこの利用者が混在し、喫煙者が外にはみ出すこともありました。加熱式たばこ思いやりゾーンを設けてからは、利用者が分散して、周囲の環境改善につながりました。



大崎駅西口 「トリックアートを使用した加熱式たばこ専用エリア」

品川区は、8月11日より大崎駅西口に加熱式たばこ専用のスペースを導入し、試験的運用を開始しました。受動喫煙防止対策としてたばこの煙やにおいが極めて少ない加熱式たばこ専用とし、また、新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため、トリックアートを活用し利用者が自然に距離を保つことができるよう工夫しています。喫煙所でのトリックアートを活用したソーシャルディスタンスの確保は、全国初の試みとなります。



カフェ・カラオケチェーンとの取組み

改正健康増進法の全面施行によって、飲食店も原則として全面禁煙となりました。加熱式たばこは飲食店でも技術的要件を満たした場所であれば、使用が認められています。PMJ は大手カフェチェーンやカラオケチェーン13社※(イタリアントマト、上島珈琲店、エクセルシオールカフェ、快活クラブ、カフェドクリエ、銀座ルノアール、コート・ダジュール、ジョイサウンド、ドトールコーヒーショップ、ビッグエコー、プロントなど)をはじめ、多くの企業様のご賛同、ご協力を得て、全国約2,700ヶ所の加熱式たばこユーザーのための喫煙環境作りを整備しています。

※五十音順



※五十音順

■ ZOZOマリンスタジアム

(2019年7月26日～)

千葉ロッテマリーンズがホームスタジアムとするZOZOマリンスタジアムは、PMJの協力のもと、2019年7月26日より球場内のすべての喫煙所が加熱式たばこ専用エリアとなる「煙のないスタジアム」に生まれ変わりました。改正健康増進法や美しく快適で安心な街づくりを目指す千葉市独自の受動喫煙防止条例のもと、利用者がより快適に楽しい時間を過ごせるクリーンなスタジアムを目指しています。



■ 白川郷

(2020年4月1日～)

白川郷合掌づくり集落を有する岐阜県大野郡白川村がPMJと包括協定を締結し、世界遺産エリアの加熱式たばこの使用環境を整備しました。世界遺産で数多く火災が発生するなど保全の重要性が高まるなか、火災リスクの軽減や改正健康増進法の全面施行に伴い、紙巻たばこの煙による非喫煙者および加熱式たばこ使用者の望まない受動喫煙を減らすことで、白川郷を世界共通の財産として未来へつなげることを目指しています。



■ 南紀白浜空港

(2020年4月1日～)

南紀白浜空港はPMJの協力の下、2020年4月1日より、南紀白浜空港ビル施設内全ての喫煙所を加熱式たばこ専用喫煙室として新たに整備し、日本初の「煙のない空港」に生まれ変わりました。今回一新した加熱式たばこ専用喫煙室には、空港利用者の皆さまにビーチや温泉など多くの観光資源を有する南紀白浜の魅力を伝える内装デザインを取り入れています。



■ 沖縄アウトレットモールあしびなー

(2020年10月23日～)

改正健康増進法を受けて、ショッピングエリア内にある全ての喫煙所を日本初※の取組みとして加熱式たばこ専用エリア・室に一新し、「たばこの煙のないアウトレットモール」に生まれ変わりました。この整備を通じて、よりクリーンで安全な環境でお客さまにお買い物を楽しんでいただくことを目指します。

※アウトレットモールと一般的に通称される大型商業施設のショッピングセンターエリア内すべての喫煙所において紙巻たばこの使用を禁止し、加熱式たばこ専用エリア・室に切替える事例は日本初



■ 有馬温泉

(2020年11月26日～)

国内最古泉を有す湯治場として国内外の注目を集める有馬温泉は、かねてより紙巻たばこの路上喫煙や吸い殻のポイ捨てに悩み、喫煙対策が課題でした。また、数多くの文化財を今に伝える観光地であることから、紙巻たばこの燃焼や吸い殻による歴史的価値のある建造物の火災リスクも懸念事項として指摘されていました。国内の温泉地として初めて「煙のない温泉」※へ向け、中心街「金の湯」「銀の湯」付近に加熱式たばこ専用エリアを2か所新設しました。

※温泉街における屋外主要エリアを加熱式たばこ専用環境整備する事例として国内初

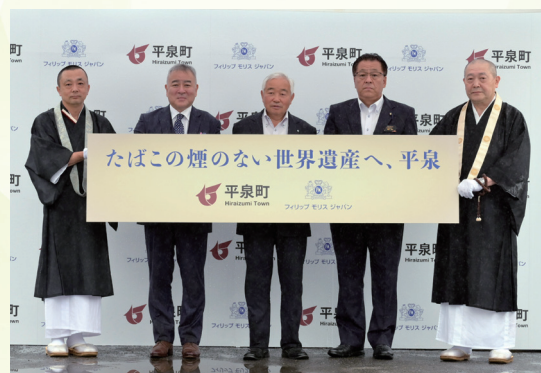


■ 平泉町

(2021年7月1日～)

岩手県南西部に位置する平泉町は、平安時代末期に大都市として栄えた、中尊寺や毛越寺などの史跡で知られる町です。これらの史跡が世界遺産登録されてから10年目となる2021年、PMJは「たばこの煙のない平泉町を目指す」協定書を同町と締結しました。

史跡だけでなく、紙巻たばこの喫煙も可であった従来型の喫煙所を擁するコンビニエンスストア3店舗における喫煙所撤去や加熱式たばこ専用エリア整備など、紙巻たばこの煙による望まない受動喫煙を防止し、町全体を火災のリスクから守り、より快適で安全に過ごせる環境を整備します。



■ TIPSTAR DOME CHIBA

(2021年11月13日～)

国内外のトップクラスの自転車競技選手による激闘の場にふさわしい、スポーツ性とエンターテインメント性を兼ね備えた自転車競技用ドーム「TIPSTAR DOME CHIBA」は、PMJの協力のもと「煙のない自転車競技用ドーム」として始動しました。

関係者用を含む4か所の加熱式たばこ専用室が新設され、施設内での燃焼をともなう紙巻たばこの使用は禁止となります。PMJの協力で加熱式たばこのみの使用を許可する大規模施設＝「煙のないランドマーク」の中では、自転車競技用施設としてはこのTIPSTAR DOME CHIBAが初となります。



■ 煙のないオフィス環境へ

企業の抱える喫煙課題は、においの問題や、社員の健康問題、喫煙所の問題など、企業によってさまざまです。当社は、たばこメーカーとしての知見や経験を活かし、企業の喫煙課題解決にむけて、最適なソリューションを提案し、課題解決にむけてサポートしています。

当社が2020年9月に独自で行った調査によると、非喫煙者の受動喫煙対策をすでに取り組んでいると答えた人事・総務ご担当様が全体の55.5%でした。また、喫煙を課題と感じている割合が全体の67.1%と、多くの企業が喫煙を課題と感じ、喫煙対策への取組みが始まっています。

● 参考URL ▶ 当社ウェブサイト「企業の喫煙環境」▶ <https://www.pmweb.jp/approach/index.html>

社員の健康増進と企業の収益向上を、加熱式たばこへの切替えで同時に実現

北海道と沖縄を除く全国各地に拠点を構え、日本のロジスティクスをけん引している富士運輸株式会社では、トラックドライバーを含む従業員の高い喫煙率が車内のおいや健康リスク、企業イメージ悪化につながっていました。加熱式たばこへの切替えを推進するため、福利厚生として加熱式たばこの初期購入費用を一部会社で負担することで、従業員の健康増進を図りました。また、加熱式たばこへの切替え推進により、たばこのおいや汚れがつかなくなるため、3年～10年で売却するトラック車両の売却額向上や社宅の壁紙張替え費用削減など、社員の健康増進だけでなく、コスト削減にも寄与しています。

富士運輸株式会社様



職場環境改善とお客様に愛される店づくりのため、加熱式たばこを導入

「ディスカウントドラッグコスモス」を全国展開する株式会社コスモス薬品では、店舗を拡大し順調に成長を続ける中で、本社の喫煙マナーとリフレッシュルーム（喫煙室）の在り方について課題を抱えていました。禁煙の呼びかけや喫煙タイムの設定など色々試したものの、リフレッシュルームから漏れる煙とおいに苦慮していました。そこで、PMJとの協働で喫煙する社員に対し加熱式たばこへの切替えを推奨し、リフレッシュルームを加熱式たばこ専用ルームにリニューアルしたところ、この問題は大幅に解消されました。本社での取組みは、全国の各店舗にも広がっています。

株式会社コスモス薬品様



総務部長 小坂さま（取材当時）